

伝統行事を活かした中久原分館の取組について

久山町 中久原分館【自治公民館】 主事 大庭 智亮

1. 事業名

中久原分館事業

2. 事業の目的

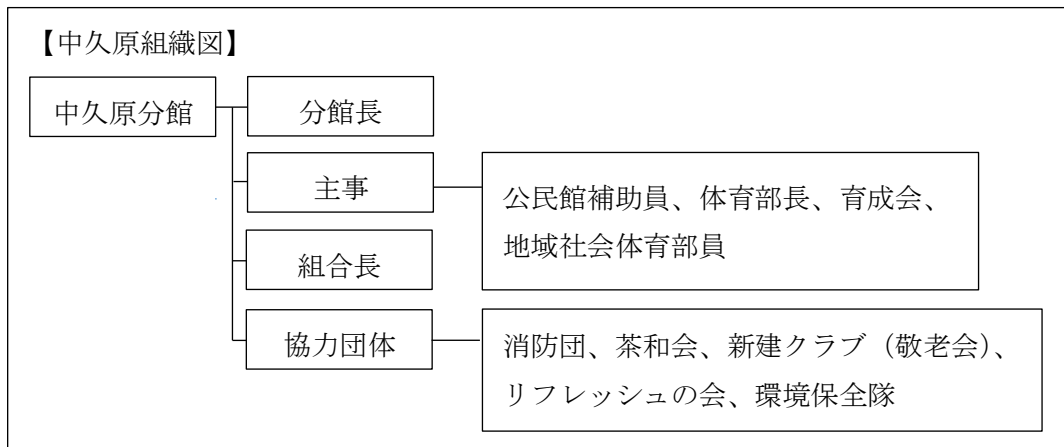
中久原区民ための実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること。

3. 事業の実施主体

中久原分館

4. 連携・協力機関・団体等

久原小学校・茶話会・婦人会 OG など



5. 事業予算

令和元年度 2,076,000 円

6. 実施に至る経緯

久山町には8つの分館があり、その一つの分館である中久原分館では、以前から奉納相撲、万度参り、運動会、ほっけんぎょうなどが分館行事として行われていた。また、アンビシャス運動が県民運動として開始され、久山町でも、平成14年度からアンビシャス運動の一つとして分館活動を行うようになった。地域通学合宿は平成15年度から開始した。

7. 事業の内容

○中久原祇園祭

須賀神社(すがじんじゃ)において、暑い夏を乗り切り無病息災、豊作・安全を祈願して開催される伝統行事で、毎年7月8日・9日ごろに行われていたが、近年はこれに近い土曜・日曜に行われている。土曜日は露店が出店、子どもによる奉納相撲や花火が行われ、町内各地区はもとより町外からも観客が訪れる。そして、日曜日早朝に行われるのが『万度参り』。各人が柿の葉を1枚ずつ神前に供え、一万枚になるまでお参りし、次に行われるのは『清道廻り(せいどうまわり)』といい、赤禪法被姿の男たちが清道のぼりをもって家々を祓い清めてまわり、須賀神社の境内でおこもりをする。いずれもこのあたりでは珍しい行事で、初夏の久山町を彩る風物詩となっている。



【奉納相撲の様子】



【『清道廻り』の様子】

○納涼演芸大会

その年に亡くなられた故人の冥福を祈願し、お盆の初日8月13日に行っている。各組合が出し物を考え、ステージで演芸を行ったり、区民全員で盆踊りを行ったりして、故人を迎える。茶和会による露店の出店も行っている。

○敬老会

高齢者を敬愛し、健康・長寿を祝うために実施している。敬老会式典後の懇親会では、小学生による手紙や歌等を披露し喜ばれている。

○わくわく通学合宿

久山町において、子どもたちに不足しがちな生活体験・体験活動を補うことを目的とし、平成16年度より、全分館で地域通学合宿を実施している。中久原分館において、「大人はなにもしない」をモットーに、本当に危険なこと以外、大人が口出し・手出しをしないことで子どもたちの自主性を引き出している。また、通学合宿での子どもの見守りを年1回の世代ごとの集まりの場として、夜の公民館は大人の社交場となっている。



【食事の様子】

○運動会

全組合を7つの地区に分け組合対抗で行っている。お年寄りから幼児まで、ほぼ全員が参加し、集落がとても賑わう一日となる。

○ほっけんぎょう

アンビシャス運動の一環として、育成会や子ども達、協力者により準備を行っている。年男が点火し、各家庭で飾られた門松や注連縄を持ち寄り、神送りをする。育成会の母親が準備する豚汁が好評である。



【神送りの様子】



【年男による点火】

8. 事業の成果

- 気軽に声をかけあったり、あいさつをしたりするようになった。
- 子どもたちが異年齢で関わるようになった。
- 様々なことに興味を持ち、積極的に行動するようになった。
- 地域全体が元気になった。
- 子どもたちの親が分館活動に参加するようになった。

9. 今後の課題

他地区から転居してきた人だけでなく、中久原区で生まれ育った若い人でも、なぜこの行事が行われているのか、どのような経緯で始まったのかを知らない人が多くなっている。行事ごとに、その内容を記した文書を作成し必要性を伝えていく必要がある。

問合せ先

〒811-2592 久山町大字久原 3632 番地 久山町教育委員会教育課 社会教育係
TEL : 092-976-1111 FAX : 092-976-2463
E-mail : shakaikyo@town.hisayama.fukuoka.jp